

ノウフク・アワード2025応募用紙(記入例)

【福祉事業所等が主体】

1. 応募者の概要(必須)				
名称	(ふりがな)しゃかいふくしほうじんのうふかい 社会福祉法人農福会			
所在地	〒000-0000 〇〇県△△市			
担当者連絡先	部署・役職	施設長	氏名	〇〇 △△
	メール	〇〇@△△.com	電話番号	000-××××-△△△△
取組主体 (複数回答可)	☐ 個人 ☐ 農林水産業経営体 ☐ 農林水産業関係団体 ☐ 一般社団法人 ☒ 社会福祉法人 ☐ NPO 法人 ☐ 特例子会社 ☐ 地方自治体 ☐ 特別支援学校 ☐ 地域協議会 ☐ 矯正施設 ☐ 更生保護施設 ☐ 高齢者施設 ☐ その他()			
設立年月日	(西暦) 2013 年3月 (設立 11 年目)			
農福連携開始年月日	(西暦) 2015 年4月 (開始9年目)			
取り組んでいる事業 (複数回答可)	☒ 慣行農業 ☐ 環境保全型農業 ☐ 特別栽培農産物の栽培 ☒ 有機農業(自然農法を含む) ☐ 林業 ☐ 水産業 ☐ 加工業 ☒ スマート農業 ☐ 輸出 ☐ 就労継続支援 A 型 ☒ 就労継続支援 B 型 ☐ 就労移行支援 ☐ 生活介護 ☐ 放課後等デイサービス ☐ 高齢者介護 ☐ 中間支援 ☒ ユニバーサル農園 ☐ その他(ストラン、直売所)			
農福連携技術支援者の有無	☒ 有(1人) ☐ 無			
実施要領3(1)募集 する取組のうち該 当する取組 (最も力を入れている 取組について1 つ選択して下さい)	☐ ① ☒ ② ☐ ③ ☐ ④ ☐ ⑤ ☐ ⑥ ☐ ⑦ ☐ ⑧ ☐ ⑨ ☐ ⑩ ※①農林水産業経営体が障害者等を直接雇用している取組 ②社会福祉法人等が運営する障害者就労施設が自ら農林水産業を行う取組、又は 自ら生産した農林水産物等を使って加工食品の製造を行う取組 ③社会福祉法人等が農林水産業法人を設立し、当該農林水産業法人において障害 者等が農林水産業を行う取組 ④農林水産業法人が障害者就労施設を設立し、当該事業所の障害者等がその農林 水産業法人の農場等で農林水産業を行う取組 ⑤農林水産業経営体と障害者就労施設が農作業(林業、水産業を含む。以下同じ。) に関する請負契約を締結して、障害者等が施設外就労で農作業等を行う取組 ⑥地域内又は近隣の市町村等の農林水産業経営体や障害者就労施設と連携して、 これらから農林水産物等を仕入れて、障害者就労施設等が加工食品の製造を行 う取組 ⑦企業や協同組合などが自ら、又は特例子会社を設置して障害者等を雇用し、農林 水産業を行う取組 ⑧地域協議会、NPO法人、協同組合等による、地域の農福連携等の需給状況の把 握や年間を通じた農作業の創出、マッチング、地域の農林水産業の特性を踏まえ た農作業の受委託のルールづくり、農福連携等の取組主体の拡大に向けた体験 会の開催、人材育成等の役割を整理・周知等の取組 ⑨地方公共団体等が支援して農福連携等を行っている取組			

	⑩その他、地域における農福連携等の定着に向けた取組、障害者等の農林水産分野での活躍を見据えた取組、ユニバーサル農園の取組、特別支援学校等教育機関での取組、高齢者施設、矯正施設や更生保護施設での取組、生活介護や放課後等デイサービスなど福の広がりに関する取組等、未来につながる取組
生産作物 (複数回答可)	☐ 米・麦・大豆 ☒ 野菜 ☐ 果樹 ☐ 畜産 ☐ 林産物 ☐ 水産物 ☐ その他()
栽培形態 (複数回答可)	☒ 露地 ☐ 施設園芸 ☐ その他()
農福連携の体系図	社会福祉法人農福会 多機能事業所〇〇会 グループホーム〇〇 就労継続支援 B 型事業所ノウフク カフェ〇〇
	(該当する場合)※複数回答可 ☐ 直接雇用 ☐ 施設外就労 ☒ 農林水産業参入
認定・取得済みの 認証等 (複数回答可)	☒ 認定農業者(認定新規就農者を含む) ☐ 6次産業化認定事業者 ☒ ノウフク JAS ☐ 有機 JAS ☐ GGAP ☐ JGAP ☐ その他の GAP ☐ その他()
受け入れている者 (複数回答可)	☐ 身体障害 ☒ 精神障害 ☒ 知的障害 ☒ その他の障害 ☐ 生活困窮者 ☐ ひきこもりの状態にある者 ☐ 高齢者 ☒ 犯罪をした者 ☐ その他()

2. 取組の概略(必須) ※取組の特長などを要約して 60 文字程度で記入してください。

近隣の農家から農地を借りて農業を開始。生産も安定し収益が向上して規模を拡大。認定農業者取得、ノウフク JAS 取得などで工賃は県平均を上回る。

3. 活動のきっかけ(必須) ※200 文字程度で記入してください。

◆企業等からの下請け業務が減少していたところ、農業に取り組んで工賃向上を図っている福祉サービス事業所のことを知り、障害者の就労の安定化や工賃向上などを目的に新たな働き場所として農業を検討。
◆JA や市役所に農地の取得等について相談したところ、事業所から1km離れた場所に 30a の農地を借りることができたことから農業に参入。
◆手探りで始めた農業であったが、JA の紹介で近隣の高齢農家から農業指導を受けることができ、安定した生産ができるようになった。

4. 取組の具体的内容及び成果(効果)(必須)

※審査基準である①人を耕す、②地域を耕す、③未来を耕すについて、活動内容、時期及びその成果(効果)をそれぞれ 600 文字以内で記入してください。

※字数制限を著しく超過する場合は減点対象となります。あらかじめご了承ください。

※応募主体別の審査基準の評価ポイントについては以下をご確認ください。

・農林水産業経営体が主体となっている取組の審査基準はこちら

(URL: <https://noufuku.jp/wprs/wp-content/uploads/2025/07/5f9709e8e543997fff0efa029e32e393.pdf>)

・福祉事業所等が主体となっている取組の審査基準はこちら

(URL: <https://noufuku.jp/wprs/wp-content/uploads/2025/07/2f6531e80f6bace01d52bdd1789e6f2a-1.pdf>)

・特例子会社や企業等が主体となっている取組の審査基準はこちら

(URL:https://noufuku.jp/wprs/wp-content/uploads/2025/07/a54c20ba2d58aeae87bf9d100cb51a4d-2.pdf) ・JA、NPO 法人、地域協議会等中間支援組織が主体となっている取組の審査基準はこちら (URL:https://noufuku.jp/wprs/wp-content/uploads/2025/07/9aeafc2863f40907ab56e8d2d6f0b435-2.pdf) ・その他(特別支援学校、高齢者介護、放課後等デイサービス等)の取組の審査基準はこちら (URL:https://noufuku.jp/wprs/wp-content/uploads/2025/07/5a3e58b19c1390790bfcbe5b374677f0-1.pdf)	① 人を耕す(例:①工賃や賃金の向上に対する取組、②障害者等が管理者や責任者などにステップアップしている事例、③農作業中等の安全管理や健康管理の取組、④一般就労につながった事例、⑤多様な人々が働くことができる職場環境の創出に関する取組、⑥多様な人々がお互いを認め合い、寄り添い、助け合おうとする環境の創出に関する取組等、<u>農福連携に取り組むことによって得られた効果又は実績について記載してください。</u>)
◆知的障害者、精神障害者、ひきこもりの方 22 名で農作業などに取り組んでおり、取組が理解されるようになったことで、地域の高齢農家などから新たに農地借りて、農地面積は1.2ha まで拡大したことで収益が向上し、県平均を大きく上回る月 5 万円以上の工賃を実現した者もいる。 ◆農作業を行うにあたっては、チームを編成し、チームごとにリーダーを設けて、リーダーの指示の下、農作業を行える体制を整えており、チームリーダーにはリーダー手当を支給し、責任感とやる気を持たせるようにしている。 ◆安全管理には十分配慮しつつ、障害者だからといって、刃物や機械の運転など危険なことはさせないのではなく、十分な指導をしたうえで葉物や機械を安全に使えるようにしているほか、障害者が使いやすい治具の開発も積極的に行い、安全に作業しやすい環境を整えている。 ◆障害者の体調管理には気を配り、真夏の炎天下の作業では、ほ場内に簡易の休憩所を設営し、熱中症対策に努めているほか、その人の適性に合った作業を選定し、徐々に難易度の高い作業に取り組んでもらうことで障害者等のスキルアップを図っている。 ◆利用者であった障害者1名が、令和5年から地域内の農業法人に就職し、他の障害者も一般就労を目指してスキル向上に取り組んでいる。 ◆障害の度合いや障害の種類に関わらず、お互い理解を深めながら、農作業に取り組んでおり、互いを認め合い、助け合おうとする姿が見られる。	② 地域を耕す(例:①農福連携を通じた収益性・生産性の向上、②地域の農地・伝統野菜・農林水産業技術等の継承し、農林水産業の維持・発展に貢献する取組、③荒廃農地の活用等により、地域の農林水産業を支える取組、④地域の祭りやイベントへの参加等を通じた地域コミュニティの維持・発展に貢献する取組、⑤直売所やレストラン・カフェの開設、農作業体験や収穫体験等を通じて地域内外からの交流人口の増加につなげる取組、⑥地域の企業、JA、学校、行政等の異業種との連携による地域活性化の取組等、<u>農福連携に取り組むことによって得られた効果又は実績について記載してください。</u>)
◆高齢化等に伴い作付けが大幅に減少している地域の伝統野菜の栽培にチャレンジしたことから、販路の拡大が図られ、収益の向上につながっている。 ◆荒廃農地や地域の高齢農家の農地の受け手となって、規模拡大を図っており、農地面積は取組当初から4倍に増加し2ha まで拡大した。このうち 1.0ha が荒廃農地の活用で、地域の農地の維持に貢献している。 ◆規模拡大に伴い、認定農業者の認定を受け、JAの組合員にもなったことから、地域の中心的な担い手として位置付けられており、地域農業の維持にも貢献している。 ◆高齢農家に出向いて農作業の手伝いを行っているほか、水路や農道の掃除や草刈りにも積極的に参加しており、農家だけでなく地域の方と触れ合う機会が増え、障害者との交流が進み、地域コミュニティの維持にもつながっている。 ◆地域の祭りや運動会などのイベントにも積極的に参加しているほか、近隣の幼稚園や小学校と連携して農業体験を実施するなどの地域交流を行っている。 ◆自農園の農産物や地域の農家の規格外野菜を活用したカフェを開設し、地域の農家の収益向上に貢献しているほか、地域内外から訪れる人が多くなり、地域の活性化に貢献しているほか、直売所も開設。 ◆こうした取組を通じて、地域の企業や JA、特別支援学校とも様々な連携や交流が図れるようになり、地域活性化にも貢献できるようになった。	

③ 未来を耕す(例:①先進性・独自性・話題性のある取組、②これから農福連携に取り組む団体等の参考となる取組であり、全国への波及効果が期待できる取組、③持続可能な地域共生社会や多様性のある地域づくりに貢献する取組、④幅広い分野・地域とのつながりを生むことで、新しい農福連携の形が形成されている取組、⑤ノウフク JAS や GAP 等の認証取得や6次産業化などを通じて、生産物の付加価値向上に関する取組等、農福連携に取り組むことによって得られた効果又は実績について記載してください。)

2022年に農山漁村振興交付金を活用して、あいまいな作業を肩代わりするロボット「ゼロアグリ」とゼロアグリと相性のよいハウス栽培も導入したことで、精神障害を持つ人の特性と作業がマッチし、収益アップにもつながっている。スマート農業の導入により、今後、機械操作に身体障害者を雇用することも検討しており、障害者の作業の幅が広がった。

◆農福連携の取組みを通じて様々な分野の方とつながりができ、情報交換することでノウフクの輪が広がっているように感じる。

◆自分たちの取組が地域のニュースや新聞などに取り上げられたことから、農福連携の取組に興味をもった地域外のレストランやスーパーなどからも当事業所の農産物を扱いたいといった申し出があり、販路が拡大している。

◆マルシェで知り合った方からノウフク JAS について、説明を受け、関心を持ったことからノウフク JAS の取得を行ったところ、商談会にお誘いを受け、ノウフク JAS の商品をバイヤーに説明したところ、商談が成立し、新たな販路の開拓につながった。

◆刑務所出所者の受け入れも開始しており、生きづらさを抱えた受け皿となる取組を行っている。

◆障害者等の目線で農作業の見直しを行い、ユニバーサル農業に取組に取り組んでいる。

◆障害のある子供を持つ親御さんから、ここの事業所でうちの子供を働かせてほしいといった要望も多く寄せられており、事業の拡大を検討しているところである。

5. 活動実績(必須) ※「項目」は、①農地面積、②荒廃農地の解消、③売上高、④障害者等 1 名あたりの月平均工賃・月平均賃金、福祉事業所等への請負報酬の支払額⑤農作業に関わる障害者等の数、⑥交流人口等、取組実績がわかるものについて、項目ごとに取組当初時と直近5年間の推移を表形式で記入してください。
特に①～⑤の項目について、該当する場合は必ず記入してください。

項 目	単位	取組当初	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年 (見込み)
農地面積	a	50	50	80	100	150	200	200
特記事項(任意): 農地面積は取組当初から4倍に増加								
農業の売上高	万円	100	150	300	400	800	1,200	1,200
特記事項(任意): 農業収入は着実に増加し、12倍に増加								
一人当たり月平均工賃	円	12,000	12,000	13,500	14,000	20,000	30,000	30,000
特記事項(任意): 2022年度に平均工賃が県平均を上回り、平均工賃5万円の人もある。								
農作業に関わる障害者数	人	15	20	20	20	22	22	22
特記事項(任意): 農業規模の拡大により農作業に関わる障害者数が増加								
特記事項(任意):								

※COVID-19 を原因として減少となった場合は、実績値に「※」を記入してください。また、COVID-19 関連で実績に影響がある場合は、「4. 取組の具体的内容及び成果(効果)」に影響を踏まえた対応や工夫を記入してください。

6. 活動の主な変遷(必須) ※活動の主な変遷について記入してください。

取組当初	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年 (見込み)
------	--------	--------	--------	--------	--------	-----------------

30a の農地を 借り農業を 開始	農地面積を 50a に拡大 し、水稻栽培 を開始	収益が向上 し、農業収入 は 400 万円 に増加	農山漁村振 興交付金で カフェを整備 農業体験を 開始	農地面積は 100a にまで 拡大し、認定 農業者として 認定、ノウフ JAS 取得	農業収入と カフェ収入で 収益が大幅 に増加。平 均工賃は県 平均を大きく 上回る	前年度と同 様の収益が 得られる見 込み。新た に農産物加 工に組み 込む予定
-------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	---	---	---	---

7. 今後の展開方向(必須) ※200 字程度で箇条書きにて記入してください。

- ◆収入の安定や利用者の周年就労を目指して、農産物加工に取り組み付加価値の向上に取り組むほか、農業ハウスを新設して、いちご栽培に取り組み、いちご狩りが行なえる観光農園とする予定である。
- ◆高齢農家から農地を借りてほしいといった要望が多いことから、農地面積の拡大にあわせて就労継続支援 A 型事業所の開設を計画している。
- ◆近隣の特別支援学校と連携して、農業体験を行うなど、卒業生の進路の一つとして、農業を選択してもらえる環境づくりをしたいと考えている。

8. 取組内容がわかる写真等(必須)

※写真、図表等を貼付し、20 文字程度で説明を記入してください。取組内容を代表する写真を必ず3枚以上6枚以内で貼付してください。

※第三者の肖像権、著作権、プライバシー等を侵害することのないように十分注意してください。

※写真等を貼り付ける際は圧縮するなどして、Wordのファイルサイズが5MB 以下となるようにしてください。

9. 表彰等の受賞歴(該当があれば記入)

表彰名等(受賞年度)	主催者
ノウフク・アワード2022 優秀賞	農福連携等応援コンソーシアム

10. 活動に関するPR・エピソード(自由記入)(任意) ※200字程度で記入してください。

この欄への記載は任意ですが、取組を行う中で、上記で記載した内容以外で、これだけはPRしておきたいことや、エピソードとして、取組にあたって苦労されたこと、取組を進める中で印象的な出来事、取組の中での生じた変化や新たな発見などがあれば記載してください。

- ① 記入欄には指定された文字数の範囲内で記入してください(文字の大きさも、当初の設定から変更しないでください)。
- ② ノウフク・アワードは、農福連携の普及啓発を目的に、表彰された取組内容はもちろんのこと、優良な取組事例を全国へ発信することとしており、応募用紙に記載・掲載いただいた内容及び写真については、農林水産省が行う広報活動及びノウフクポータルサイト(ノウフクWEB)への掲載並びに地方公共団体への情報提供等(農林水産省ホームページへの掲載、選定事例集への掲載、政府施策紹介資料への掲載など)に使用することがございますので、あらかじめご了承ください。(個人名については公表、使用はいたしません。)
- ③ 提出いただいた応募用紙等については返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。